

サビエル生誕五百年



巡礼の道

341

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

花菖蒲しょうぶの芽吹き

「自然の営みに神を見る」

今、庭に出るのがうれしくてたまらない。

昨年、花菖蒲を百株以上もらった。大きな肥料袋に四袋もあり、これだけのものをどうしようかと困惑した。わざわざ掘り起こし

た人の苦勞を考えると一株も無駄にできない。「腰が痛い」と言いながら二日かけて泥を洗い落とし、株分けする。そして庭にある火鉢、植え木鉢、プランターを総動員した

が、足りないので大型プランターを三つ買い求めてすべてを植えた。

花菖蒲の株分け、植え方など、説明パンフレットの通りにしたのだが、冬になって見た目は茎などが枯れると、本当に芽が出てくるのかと心配していた。ところ



プリンセス・タキ宅の花菖蒲 (昨年写す)

が春の訪れとともに、すべての株から新芽が出て、今、たくましく成長している。パンフレットには「三月に入ると芽が動き出し、ゲングンと伸



芽が出た花菖蒲たち

ろんな番組を放送しており、一人で退屈しないで時間を過ごせる。しかし、それが今の孤独社会を作り出しているのではないかと思う。「人」はその語源のように支

まず自分を愛さねばならない。花菖蒲の芽吹きは私に人間の復活を確信させ、いのちの輝きを気づかせてくれる。私も愛する者として創造されたのだ。芽吹きは花菖蒲だけではない。三十坪余りの庭のあちこちにチュールリップをはじめ、いろんな花が芽を出している。あとは蓮の芽が出るのを待つばかりだ。

び、開花時に負けず劣らず、育ててきた感動を呼び起こす」とある。まさにその通りで、自然の営みの中に神の輝きを実感する。庭に出る喜びはここにあるのだ。

が良くない。妻と話し合い「プリンセス・タキ」と呼ぶことにした。中村さんにそう言うのと「タコ」が「プリンセス・タキ」になったと大笑い。私はまじめに花菖蒲の親にふさわしいと思っている。とにかく、花菖蒲が我が家に嫁に来て以来、中村さんとプリンセス・タキさんと急に親しくなった。この年齢になって新しい友ができることは本当うれしい。今の世の中、他人の家に行ったりする機会が少なくなつた。物の豊かさは他人を必要とせず、その結果、交わりも少ない。テレビをつければい

え合い、交わって生きて初めて「人」である。信仰も個人と神の関係だけではない。人と神との関係、すなわち人と人との交わりの中に神がおられる。だからイエスは自分のように隣人を愛せと言われるのだらう。それには

花を愛する妻が植えたものばかりだ。今、花は私たちを結ぶ。そして一人でも多くの人がこの花たちを見に来てくれたらうれしい。人が一人々々異なるように、花もみんな違う。が、どれも良い。神のなせる技だ。

た。ところが春の訪れとともに、すべての株から新芽が出て、今、たくましく成長している。パンフレットには「三月に入ると芽が動き出し、ゲングンと伸

プリンセス・タキ宅の花菖蒲 (昨年写す)



マリア像を囲み、いろんな花が咲き始める